

「花の会」公演／上田邦義 作／足立禮子・鈴木啓吾 作補

『能・リア王』再演

The Second Presentation of **NOH: KING LEAR** in Japanese
Script & Direction: Kuniyoshi UEDA

日時 2008年 **5月10日(土)**
午後1時開演 (12時半開場)

場所 セルリアンタワー能楽堂
(JR「渋谷駅」南口より徒歩5分)

入場料 指定席 S : 6,000円
A : 5,000円
自由席 B : 4,000円
学生 : 2,500円

問合せ TEL. 03-3421-1525 (足立)
TEL. 0557-82-1411 (上田)
TEL. 042-644-6813 (菊地)

足立 禮子 シテ (コーディーリア)
シェイクスピアの創造した最も美しい女性コーディーリアを、
現役最長老の女流能楽師、足立禮子が演ずる。
「万全の安心感」「能の位」「豊かな時間がここにある」
(馬場あき子氏評)

May 10 (Saturday), 2008, 1:00p.m.
Cerulean Tower Noh Theatre, Shibuya, Tokyo
(Five minutes walk from JR & subways Shibuya Station south exit)

Shite (Cordelia): Madam Reiko ADACHI (Kanze school)
The eldest female Noh performer of Japan

Tsure (King Lear): Yoshihisa Endo (Kanze school)

Programme:

Shimai : Takasago, Kiyotsune, Hajitomi, Kanawa, Ukai (Kanze school)

Kyogen: Suou-otoshi (Ohkura school)

Noh : King Lear (New Noh play)

Admission : Reserved Seat S:6000yen/A:5000yen

Non-reserved Seat B:4000yen/Student:2500yen

当日番組 仕舞 「高砂」小島英明、「清経」ケ鈴木啓吾
「半部」ケ杉澤陽子、「鉄輪」森 壽子
「鶉飼」キ奥川恒治
狂言 「素袍落」
山本則直、山本則俊、山本則重
能 「新作能・リア王」足立禮子
ツレ (リア王) 遠藤喜久 (侍 女) 新井麻衣子
アイ狂言 (隊長および道化) 遠藤博義
地 謡 鈴木啓吾・小島英明・松井好三
本田博保
後 見 奥川恒治・杉澤陽子
笛 寺井久八郎 小 鼓 古賀裕己
大 鼓 上條芳暉 太 鼓 徳田宗久

『能・リア王』初演を観て

八十二歳の足立禮子が、二十歳に満たない純情のコーディーリアを、シテとして演じたのが、この新作能の真髄であろう。美しい面や装束の外装に覆われた中身である最高齢女流能楽師の芸は、幽玄の境地に達していて、美德の持ち主であり女性の鏡でもあって、その声は、「いつも静かに柔らかく優しくかった」コーディーリアの至高の人格を、抑制の極限にまで剃り落とした声と所作の絶妙な表現力によって、能舞台から観客の心へ、それぞれ「一期一会」の、勿体ないような瞬時の至芸として、染み渡るように伝えるのに成功していた。とりわけ無知と愚行、狂気と忍耐を通して、死の寸前にやっと「人の生き死にが初めて分かった」ツレの父王(遠藤喜久)を、勘当された末娘のコーディーリアが迎えに来るラスト・シーンは、シェイクスピアの『リア王』の真情と、上田『能・リア王』の真情が解け合っていて、日本人の心である禅の世界を、そこに見た観客は私だけではないと思う。「わが夫フランス王の真情により、父上の御霊も鎮まりて。こなたに來り給へやと。コーディーリア姫の御迎へに、真実の国へ行き給へ」との地謡に合わせて、リア王と末娘が「早舞やがて相舞」となって、橋掛りを奥へと消えていく。そこにはもう言葉はなく、父と娘の美しい心の融合、東西文化の見事な融合があるのみ。言葉を越えた能の美学は、日本の言葉を読んだだけでは見えてこない。この日の舞台を見た観客のみが共有できる世界で、それが舞台芸術の真髄であり、宿命でもある。

荒井 良雄(駒沢大学名誉教授)

かつて少なからず能楽鑑賞に出掛けた中で、これほど感動したことはなかった。恐らく、純粋なコーディーリアの心に、リア王の真心が、この世の最終点とあの世の出発点で一つに結ばれたことへの感動であったのだと思う。シテ(コーディーリア)の足立禮子師の伸びやかでゆったりとした、とろけるような美声と、ツレ(リア王)の遠藤喜久師の悲愴を滲ませた太い声の醸す見事なバランス感覚に圧倒されたものだ。

遠藤 光(『アレーティア』編集主幹)

これまでの上田氏の能シェイクスピアの中で、一曲の能として最もすぐれた作品になったのではないか。成功の大きな理由は、『リア王』の終幕を複式能に構成し、シテをリアではなく、コーディーリアとしたことにあるように思われる。霊となったシテ(足立禮子)の姿は美しく、相舞となるとき、リアのよれ狩衣が脱げ落ちて白狩衣に変わるのも印象的であった。原作にはもちろんないキリを大胆に取り込んだ、この後場の構想が出来上がったときに、『リア王』の能化が完成したのではないか。

岡本 靖正(東京学芸大学前学長)

『能・リア王』は、まさにシェイクスピア作品を下敷きにした上田作の創作能と言えるだろう。長大な原作の内容をアイの道化師を上手に使って要領よくまとめたのは見事である。

堀上 謙(『新・能楽ジャーナル』編集長)

足立禮子 略歴



- 1925年 小樽市生まれ。
- 1948年 女流能草分け津村紀三子入門。のち親世喜之家所属。
- 1964年 『道成寺』披き。七五年秘曲『卒都婆小町』披き。以後、『鸚鵡小町』『恋重荷』『鶯』その他。
- 2004年 日本能楽会会員(重要無形文化財総合指定認定)となる。親世流能楽師。禮能会主宰。著書に、写真集『華』(ビイング・ネット・プレス)、『NOと言わない生き方』(三五館)。

上田邦義略歴

1934年山形県生まれ。73-75年フルブライト研究員(ハーバード大学)。82年英語能『ハムレット』作・主演。以後、『オセロー』『マクベス』『リア王』を国内外で発表。また日本語能『オセロー』『クレオパトラ』『トマス・ベケット』『ハムレット』『ふたりのノーラ』作・演出。静岡大学名誉教授。博士(国際関係)。2000年より「調和と融合」をモットーに国際融合文化学会会長。

セルリアンタワー能楽堂

東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー内(「渋谷駅」JR南口・地下鉄東急・京王より徒歩5分)
TEL. 03-3477-6412 (セルリアンタワー能楽堂)

協賛: 華の座・国際融合文化学会・英語能シェイクスピア研究会・(株)グランディール・三五館・(株)ニシガイ

